

科目名	診療・治療に伴う共通技術Ⅰ	分野/教育内容	専門分野Ⅰ/基礎看護学
開講年次・ 時期	1年後期 令和3年7月28日	単位数/時間	1単位/30時間 診療・治療に伴う共通技術Ⅰは、呼吸管理：8時間、 与薬・輸血：18時間、電法：4時間の3単元を合 わせて1単位となる
担当講師名	山根 智草	所属・役職	宮古高等看護学院・看護教員
		資格・免許	看護師
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸・循環の状態の維持・改善する意義を理解し技術を身に付ける。侵襲を伴う技術であり心身への影響が大きいことを理解する。 ・酸素吸入は、治療の側面も持ち医師の指示が必要であることを理解し、かつ指示が現在の患者の状況にあっているか判断が求められることを理解する。 ・薬物の基礎知識を理解し、指示された薬物を安全・適切に与薬する方法を学ぶ。 ・輸血の取り扱い方法を理解し、輸血時の援助方法と合併症への対処方法を学ぶ。 		
到達目標	<p><電法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体温・循環調節の手段としての冷電法・温電法の意義を理解し、その方法を習得する。 <p><与薬></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物療法における看護師の役割と看護の原則について理解する。 2. 経口的・非経口的与薬法の特性を理解し安全かつ安楽に実施するための方法を理解する。 3. 注射実施や輸液管理に伴う危険性について理解し、安全な注射実施の方法を身に付ける。 4. 輸血療法に関する基礎的知識を理解する。 <p><呼吸管理></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の呼吸のもつ意義、呼吸状態についてのアセスメント、呼吸を楽にする姿勢や呼吸法の意義・方法を理解する。 2. 気道分泌物の排出方法の援助技術を理解する。 3. 酸素吸入療法の意義とその援助方法を習得する。 		
事前学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に該当する教科書や参考書を必ず読んでから授業に臨むこと ・適宜、事前学習課題があります。各自、計画的に取り組み提出期限を遵守すること。 		
成績評価の 方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験（90点） 配点：電法10点、与薬50点、呼吸管理30点 2. 課題の取り組み・提出状況（10点） 		
使用テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社） 2. 看護技術ベーシックス（サイオ出版） <p>【参考文献】：与薬 医療安全ワークブック（医学書院）、薬理学（医学書院）</p>		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第1回	体温管理・保温の基礎知識 電法による体温管理・保温の意義		講義
第2回	冷電法・温電法の実際		演習
第3回	与薬に関する基礎知識（剤形と吸収経路・看護師の役割・薬の管理）		講義
第4回	経口与薬法・口腔内与薬法		講義
第5回	直腸内与薬法		講義・演習
第6回	経皮与薬、点眼法、吸入法		講義
第7・8回	注射法の基礎知識、筋肉注射・皮下注射・皮内注射・静脈内注射 点滴静脈内注射、中心静脈カテーテル法		講義・演習
第9・10回	皮下注射、筋肉内注射		演習
第11回	輸血療法		講義

令和3年度 59回生 授業概要（シラバス）

第12回	呼吸を楽にする技術 酸素吸入療法について	講義
第13回	呼吸を楽にする技術 酸素吸入療法、安楽な呼吸を促すための援助	演習
第14・15回	呼吸を楽にする技術 吸引（一時的吸引法）	講義・演習
履修上の 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の予習・復習を行い疑問点はそのままにせず質問するなど、積極的に知識・技術の習得に努めること。 ・演習の際は、看護技術の習得に向けて積極的に取り組むこと。 ・技術の習得に向けて自発的に練習を行うこと。 ・体調管理を十分に留意すること。 	

令和4年度 59回生 授業概要(シラバス)

科目名	診療・治療に伴う共通看護技術Ⅱ	分野/教育内容	専門分野Ⅰ/基礎看護学	
開講年次・時期	2年後期 令和4年12月9日	単位数/時間	1 単位/30 時間 本科目は以下の3 単元で構成される ・ 創傷ケア：4 時間 ・ CE 機器：4 時間 ・ <u>検査・処置：22 時間</u>	
担当講師名	山本穰	所属・役職	専任教員	
		資格・免許	看護師	
授業の概要	医療の場において、患者は診断・治療の判断に必要な検査・処置を受ける。これらの検査・治療の概要を知る。また、それらの検査・治療を受ける患者への看護を学ぶ			
到達目標	1. 検査・処置に必要な知識を習得する 2. 検査・処置が行われる時の看護師の役割を理解する 3. 検査・処置が行われる時の看護の実際を理解する			
予習の内容	1. 7月の基礎看護学実習Ⅱの病棟実習の受け持ち患者に行われていた検査・処置を思い出しておく 2. 11月に臨む成人看護学実習Ⅰの病棟実習の受け持ち患者に行われる検査・処置を忘れずに記憶しておく			
成績評価	本科目の評価は、以下の3単元の試験の合計点数となる ・ 創傷ケア：20点 ・ CE機器：20点 ・ <u>検査・処置：60点</u> 本単元(検査・処置)の試験は筆記試験。例年行っていた静脈血採血の技術試験は行わない			
使用教科書	1. 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (メヂカルフレンド社) 2. 看護技術ベーシックス 第2版 (サイオ出版) 3. 新訂版 看護に生かす検査マニュアル 第2版 (サイオ出版)			
授業回数	授業計画	授業形態	授業方法の具体	授業場所
第1回	検体検査	講義→演習	グループワークの説明 →ジグソー法を用いたグループワーク	教室→校内各所
第2回		演習	グループワークの続き →発表へ向けた資料の準備	校内各所
第3回			発表の練習→グループごとの発表	多目的ホール
第4回	静脈血採血	講義		教室
第5・6回		演習		看護実習室
第7回	包帯法	講義→演習		
第8回	生体検査	講義→演習	グループワークの説明 →ジグソー法を用いたグループワーク	教室→校内各所
第9回		演習	グループワークの続き →発表へ向けた資料の準備	校内各所
第10回			発表の練習→グループごとの発表	多目的ホール
第11回	まとめ→試験	講義→試験	授業内容のふり返り・補足→試験	教室
履修上の留意点	1. 上記の授業計画は、本シラバス作成時点での暫定である。講師や2年生の状況によって、多少変更する可能性がある 2. グループで学習し、その内容を発表(プレゼンテーション)してもらうことがある 3. 臨地実習で目にする機会が少ない検査も学習する。また、臨地実習の経験に乏しい中で、授業で学習する検査・処置のイメージがつきにくいと思うが、とりあえず受講してみたい 4. 静脈血採血の演習では注射針を取り扱う			

令和4年度 59回生 授業概要(シラバス)

科目名	診療・治療に伴う共通看護技術Ⅱ(CE 機器)	分野/教育内容	専門分野Ⅰ/基礎看護学
開講年次・時期	2 年後期 令和 4 年 9 月 2 1 日	単位数/時間	1 単位/30 時間 單元ごとの授業時間の内訳は以下のとおり ・ 検査・処置：22 時間 ・ <u>CE 機器：4 時間</u> ・ 創傷ケア：4 時間
担当講師名	及川 真紀子	所属・役職	県立宮古病院 主任臨床工学技士
		資格・免許	臨床工学技士
授業の概要	検査・処置の目的や方法を理解し、患者が安全に安心した検査が受けられるように援助することを学ぶ		
到達目標	医療機器を使用し、正しい成果を得るために各機器のメカニズムを理解し、安全に適切に使用方法を学ぶ		
事前学習内容			
成績評価の方法	試験での評価(20 点)		
使用テキスト	医学書院 臨床看護総論		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	付章 医療機器の原理と実際 電気の基礎：人体と電気の関係について CE 図記号・病院電気設備・医療ガス配管・ボンベについて		講義
第 2 回	付章 医療機器の原理と実際 心電図・血圧計・パルスオキシメーター・生体情報モニターの基礎・操作		
履修上の留意点	・ 教科書の本授業に関連する内容に必ず目をとおしてから授業を受ける ・ 分からないことはそのままにせず、疑問を解決できるように行動する ・ 新型コロナウイルス禍にある過酷な状況の中で授業に来ていただいている講師に、感謝の気持ちをもって授業を受ける		

令和4年度 59回生 授業概要(シラバス)

科目名	診療・治療に伴う 共通看護技術Ⅱ(創傷ケア)	分野/教育内容	専門分野Ⅰ/基礎看護学
開講年次・時期	2年前期 令和4年12月8日～	単位数/時間	1単位/30時間 「診療・治療に伴う共通技術Ⅱ」 の科目を構成する各単元の授 業時間は以下のとおり ・ 検査・処置：22時間 ・ CE 機器：4時間 ・ 創傷ケア：4時間
担当講師名	小野寺恵子 先生	所属・役職	県立宮古病院・主任看護師
		資格・免許	皮膚排泄ケア認定看護師
授業の概要	検査・処置の目的や方法を理解し、患者が安全に安心した検査・処置が受けられるように援助することを学ぶ		
到達目標	創傷管理の意義を理解し、創傷処置の方法、褥瘡予防の方法が分かる		
成績評価の方法	筆記試験による評価 創傷ケア：20点分（検査・処置は60点、CE機器は20点）		
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 ・ 看護技術ベーシックス第2版 サイオ出版 		
授業回数	授業概要（主な学習内容）		授業形態
第1回	創傷管理技術：創傷の基礎知識(テープの貼り方、剥がし方も含む)		講義・演習
第2回	創傷管理技術：褥瘡予防		講義
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の本授業に関連する内容に必ず目をとおしてから授業を受ける ・ 分からないことはそのままにせず、疑問を解決できるように行動する ・ 新型コロナウイルス禍にある過酷な状況の中で授業に来ていただいている講師に、感謝の気持ちをもって授業を受ける 		